

登場人物

女 1
女 2
男

状況

ここは建物が半壊したカラオケボックスの中。別々の部屋でカラオケをしていた他人同士である女 1、女 2 はそれぞれ閉じ込められている。

大きな揺れ（震度 5～6 程度）のあと、部屋のドアはゆがんで開かなくなり、部屋の照明は切れ切れで薄暗くなっている。2 人は狭い個室の中に自分以外のものの気配を感じ始める。

女 2 がマイクで呼びかけていると、女 1 が気づき、双方の会話が始まる。各部屋の状況確認をした後、部屋にある異物の存在を確認しようとしている。

おそらく 2 人ともそれぞれの部屋にある、それぞれの異物をいぶかしそうに見つめている。

暗転中。

カセットテープが巻き戻るような、レーザーディスクが入れ替わるようなアナログな機械音（以下、アナログな機械音）がする。

平松愛梨の「部屋と Y シャツと私」が流れる。

曲の途中でアナログな機械音が流れ、曲が不自然に途切れる。

明転。

舞台上に女 1（妊婦）がいる。

女 1 はマイクを持って、何かから目を外さずに、マイクに向けてぼつりぼつりとつぶやいていく。

女 1　ええ、そう、ですね、私の身長よりはもちろん小さいです、そう、ですね、なんというか、色が、白くて、割と大きくて、やや丸みを、それでふさふさと、あ、でも身長よりは小さくて、私より、急に、はい、現れて……不気味ですね。

別の場所に女2があらわれる。

その女2から女1の状況はうかがえない。ただマイクを通して声は聞こえる。

女2 (やや遠くから聞こえた感じで) 結構大きいってことですか? 不気味ですね。

女1 はい、私の身長ほどではないですけど

女2 あとは何か、その、みずみずしいとか

女1 みずみずしい? え?

女2 はい

女1 え、みずみずしさは、ないですね。

女2 じゃあ、ちょっと青いとか、辛(から) そうとか

女1 え? から? 青く、はないですね、辛そうかどうかはちょっと。

女2 そうですか、それは、その、何か危ないとか危険を感じるとかそういったものの感じでしょうか

女1 そう、ですね、危険な感じはしないような気がしますけど、私の身長の3割くらいでしょうか、ちょうど、私の、そう、ですね、それくらいで。大きさ。危険、どうなんでしょう、不気味ですけど、でも私の身長の3割くらい、なんです

女2 (ここから普通に聞こえる感じで) あの、

女1 はい?

女2 さっきから、なんですけど

女1 はい

女2 まず、私、あなたの身長、その、わからないんですね

女1 はい

女2、戸惑う。

女1 あの、ちなみにそちらは、どんな感じのものですか?

女2 大根ですね。

女1 え?

女1、戸惑う。

女2 完全に大根にそっくりです。ちょうどぶっ刺さってる感じですね。

女1 え? 大根?

女1、戸惑う。

女2 え？

女2、戸惑う。

女2 あの。今のところは、何も無いようすし、やっぱり待ちましようか、待ちましよう。待つしかないです。こういうときは、落ち着いて待つんです。誰か来るまで。そういうものです。きっと大丈夫です。誰か来ます。

女1 あの、誰かって誰ですか。

女2 いや、それは、なんか、警察とか消防隊とか、まあ周りの

女1 来ますかね

女2 来ますよ、ていうか、それしかないでしょう、待つしか

女1 どうでしょう。

女2 どうでしょうって。

女1 私、待つの苦手なんです、

女2 いや、でもそんなこと言われても、仕方ないでしょうこんな状況だと

女1 分かってますよ、でも、待ち合わせでもよく、思うんです。待ち、合わせてるわけですよ。合わせてるんだから、その時間に来ればいいですよ、でもよく彼に怒られるんです、怒られるというかなんだか残念な顔をされるというか。私より10分前に来ていた彼は時間ちょうどに来た私にむかって遅かったね、って。遅かった？おかしくないですか、待ち、合わせているんですよ、どう思います？毎回ですよ、毎回、そう思うでしょう？

女2 いや、まあ、そう、ですね、お気持ちは分かりますけど、でも今はそういう話では

女1 今日もそうなんです。私、それが積もり積もって、待ち合わせ場所で喧嘩して、むしゃくしゃして、彼をおいて一人で、歌でも歌って発散しようここに。でもそれでこんなことに

女2 ああ、そうだったんですね

女1 あの時、彼が時間ちょうどに来てくれてたら、そう全部彼が、彼が、ね、全部ね

女2 何同意させようとしてるんですか、それはちょっと違うんじゃないですか、あなたもそういう彼だということを知ってたんですから、そこは合わせて10分前に行けば

女1 え、だって1時に待ち合わせしてるのに、12時50分に待ち合うように行くんですか？それおかしくないですか、待ち合わせの合わせの意味おかしくないですか、合わせてないですよ、

女2 いや、まあ正論ですけど、正論だけじゃないでしょうよ、世の中、合わせには、そこらへんは柔軟に、みたいな感じの意味もあるんじゃないですか

女1 じゃあ嘘をついたり約束を破ったりしてもいいっていうんですか

女2 え、飛躍がすごいですね
女1 いっしょですよ
女2 いや、あのね、今、世の中、そんなことっていっぱいあるじゃないですか、大小の問題ってあるじゃないですか。そんなことで目くじら立ててたら、
女1 でも私にとっては大なんです
女2 でも今の状況、携帯も使えないし、ていうかそもそも待ち合わせをしているわけじゃないですから、待つってことの状況が違うじゃないですか、いついつに助けが来るって約束をしてるわけじゃないでしょうよ
女1 不倫ってよくないでしょ
女2 なんなんですかあなた、さっきから飛躍が、
女1 よくテレビで不倫って叩かれてるじゃないですか。テレビ出れなくなっちゃったり、国会議員が辞めちゃったり、
女2 まあ、ありますね、ちょっとひどい気もしますけどね、何もそこまで叩かなくてもって感じで
女1 何がそこまでなんですか、当たり前じゃないですか。叩くべきですよ。よその国だったら死刑のところもあるんですよ。それなのに堂々と決まり事を破っている人がいるのを見たら、子供はどう思うんですか、そういうのいいんだって思うでしょう。子供たちの未来は、日本の未来はどうなるんですか、世界の未来の子供たちはすぐ殺し合いで解決ですよ
女2 ちょっとちょっとちょっと落ち着いてください。待ってください。飛躍がエグすぎて、私が混乱してきました。今は落ち着きましょう。待ちましょう、そのうち公共機関が動きますから
女1 公共機関って、国は何をしているんですか、何をしてくれるんですか、そんなのに頼れるんですか、テレビでも言ってましたよ、今はミサイルを撃ち込まれようとしていて、どこに落ちてくるかもわからない状況で、待つてなんかいられませんよ。私、迷ってるんです。実はおろそうかどうか、と。
女2 は？え？何、おろ、あ、もう、はあ、いいです、それで？
女1 彼とご飯を食べているときです。秋なのでサンマを買ってきたんです。
女2 さんま、いいですね、合いますよね、ああお腹（おなかをさする）。
女1 そしたら、彼、（おなかをさする）私とそういう話をしている最中に、未来の話を。同じこと言われたんです。話飛ぶって。私料理には自信あっていつもちゃんとするんです。でもその日はバタバタしてたんで、ほんとにサンマを焼いただけ、お皿の上にはさんまだけ、それとご飯だったんで、確かに準備に時間がなかったけど、でも
女2 はあ、それで、せめてってことですか。おろしたらよかったってことですか？
女1 はい、でもおろすとなるといろいろ大変でしょう
女2 まあ手間はかかりますね、下ごしらえとか

女1 何よりしんどいじゃないですか
女2 まあ、疲れますね、手とかくたくたになりますし
女1 え、……手が？そうなんですか？
女2 え、はい
女1 手が？はあ
女2 何言ってるんですか、あるあるじゃないですか
女1 それに、おろすと精神的にもしんどいですし
女2 精神的？あなたおろすだけで精神的にしんどくなるんですか？
女1 なりますよ、当たり前じゃないですか
女2 こう、おろすだけで？
女1 当たり前です
女2 当たり前って、なんですか、おろされちゃってかわいそうだな一的な感じですか。
女1 的な感じってなんですか、ちゃってってなんですか、そんなの当たり前じゃないで
すか、人間ですか、あなた
女2 いや、あなたの方こそどこに感情移入してるんですか
女1 え、するでしょう普通、みんなしますよ
女2 でもまあそこまで言うなら次からはおろしてあげた方がいいんじゃないですか。
女1 次って、いや、次はってそんな簡単に。今回はどうするんですか。
女2 終わったことでしょう。
女1 終わるって何ですか、終わってないですよ、まだ続いていますよ、私の中で。
女2 はあ、あなたの中で、あなたの中ではそうなんですね。
女1 彼とはずっと同じ気持ちを持っていると思っていたのに、彼、私が「ないの」って
言った瞬間、顔が一瞬凍りついた気がしたんです。
女2 ああ、なるほど。まあ、二つで一つ、それで完成みたいところありますからね。
どちらかが欠けると物足りないですからね。
女1 そうですよ。
女2 私なんかはあと、かぼすとかほしくなりますけどね
女1 かぼす？え、かぼす？なんでかぼすが？
女2 いやまあ人によりますけど。
女1 え、そういう言い伝えみたいなのあるんですか？かぼすが子宝に恵まれる、みたい
な。ああ、そう言われれば丸いですし、
女2 何言ってるんですか。
女1 でも金柑二つの方がいいような。
女2 下ネタですか
女1 え、いや、だってあなたが、え、あなただったらどうしますか？
女2 私はやっぱりおろしですよ、まあ、生臭いものが嫌いな人っていますからね、

女1 生臭いものって、エグイ表現しますね
女2 ま、言っても生臭いでしょう、ぬめぬめしてて、血も出てる時ありますし、でもま、そういう時はよく焼いちゃえばいいんですけどね。
女1 ええ？よく焼く、え？自分でおろして、自分で焼くんですか？
女2 え、はい。ま、好みで。
女1 え、好み？あなた、猟奇殺人犯か何かですか。
女2 は？いや、やるでしょうよ。普通。え、あなたさっきから、どこに感情移入してるんですか
女1 だから感情とかじゃなくて、普通ためらうでしょう。あなた感情ないんですか。このおなかのことですよ。
女2 おなかのことですよ、ええ私食べるの好きですし。
女1 え、食べるんですか？おろした後食べるんですか？
女2 え、食べますよ、そりゃ食べるでしょう。普通。なんのためにおろすんですか。
女1 完全にサイコパスじゃないですか。
女2 おろしたのに放置しとくんですか？なんか赤茶色に汚れた色になっていきますよ？虫もわきますよ？
女1 だから表現がエグイですよ、さっきから。そういうのはしかるべきところがしかるべき対応をしてくれるでしょう。
女2 しかるべき対応って何ですか、どうするんですか。
女1 それはまあ、よく知らないですけど火葬場で焼いてもらったり、お墓とかで埋葬してお経読んでもらうとか
女2 何してるんですか、気持ち悪いですよ、お経って、おろしたものの前でお坊さん呼んでお経読むんですか？塩の代わりですか。
女1 神父さんのときもあると思いますけど。
女2 いや宗派、宗派関係ないですから、なんなんですか、宗教の人ですかあなた
女1 無宗教ですけど、でも普通にそういう気持ちになるでしょう
女2 普通ならないですよ、だとしたらあなたの普通と私の普通は違いすぎますよ
女1 いや、サイコパスに言われたくないですけど。よかったですよ、部屋別で
女2 いや、こっちこそ勧誘されなくてよかったですよ

急に、アナログな機械音がする

2人 え、
女1 今、何か、聞こえましたか
女2 ええ、音がしました、こっちでも
女1 え、これ？

女2 え、外？

間

女2 気のせいですかね。

女1 いや、絶対音しました。

間。

女2 ……人によりますよね、普通って、自分の普通だけだとよくわからなくなりますね。

女1 そうですね、でも、わかろうとする努力は必要だと思いますけど

女2 それ、言ったらいいですよ、

女1 え

女2 彼に

女1 え、ああ

女2 あと、あなたにも

女1 え

女2 まあ、待ちましょう、もしかして助けが来たのかもしれない

女1 ……でも、このままの気持ちでいて将来自信が続くとは限らないので

女2 でも地震が無いって言えない国ですからね、むしろ多い国ですし現に

女1 え、その地震

女2 え、はは、すれ違いですね

女1 そうですね。

間。

女2 何、歌ってたんですか

女1 え

女2 カラオケ、歌

女1 あ、ああ。部屋と Y シャツと私です。

女2 ああ。彼の食事に毒入りスープ出さないでくださいね。

女1 え、はあ、たぶん、あ、あなたは？

女2 千昌夫の北国の春です。

女1 渋いな。

2人、どちらともなく「部屋と Y シャツと私」を鼻歌で歌う

またアナログな機械音。先ほどより大きく長い。

2人 ヒッ

遠くから男の声が聞こえる。男は肉声。

男 おーい、誰かいますかー、誰かーいますかー、おーい
女2 助けですよ、います、います、ここですー、私ともう一人ー
男 (やや遠くから聞こえた感じで) 大丈夫ですかーどこですかー
女2 大丈夫ですーここですーここー
女1 (かぶって) 大丈夫ですーここですー
女2 あ、405 ですー
女1 (かぶって) ここですー
男 わかりましたーちょっと待っててくださいーいきますー

アナログな機械音とがれきがくずれる音。

女1 よかったですね。
女2 ええ、よかったですね。
男 すみませーん、ちょっとここまでしか、ちょっとあれ、あ無理です、行けないですー
女2 塞がってるってことですか？
男 そんな感じですーちょっとこれ一人じゃ、人を、くっ……すみませんーん、無理ですー、すみませーん、そっちは大丈夫ですかー
女2 大丈夫ですー
女1 それって夜までここにいなきゃいけない感じですか？
男 ちょっと夜かどうかは分かりませんー、あ、(マイクを拾って) ……あー、あー聞こえますか？
女2 あ、聞こえます。
男 電気は来てるんだ。
女2 そうなんです。それでなんとか会話はできてて
男 あ、そうなんです、でも無事そうでよかったです。
女2 あの、あなたは？あの、外は大丈夫ですか？どうなってるんですか？
男 うわ、なんだこれ、え？
女2 どうしたんですか？
女1 (かぶって) あの、外は

男 (かぶって) いや、ちょっとびっくりしただけで、大きいな、これ
女1 (かぶって) あの、外って
女2 (かぶって) 大根ですか？
男 (かぶって) え？え、え、あ、外？いや、わかんないですよ、ここ古かったからなあ、わあここも壁、すごいな
女2 え、あなたは、あの失礼ですけど消防隊員か何か
男 あ、私ですか、いえ私はあの、まあ近所に住んでいて。一応 119 (イチイチキュー) もしたんですけど、電波繋がらなくて
女2 ああ、私たちもです。
男 あなたたち 2 人だけですか？
女2 ええ、部屋は違うので、お互いアレなんですけど、確認できたのは、あのこれ、アアアで呼びかけて
男 もしかしたら店員の方もいるかもしれないですね
女1 ああ、あの太った、眼鏡の、金正恩みたいな
男 ああ、正恩
女2 金日成じゃなくて？
男 あれ日成でしたっけ。眼鏡かけてるの。イッテ Q とかに出てる人ですよ。ね。
女2 それチャン・カワイですね。
女1 でもよかったです。これで出られるんですよ？
男 はい？
女2 そうですね、安心しました。
男 ああ、そうなんです、出られるんですよ
2 人 え？
男 ていうか、これどういう状況なんですか？僕確かカラオケに来てて、歌ってる途中に、地震があつて、えーと、いや、その気が付いたら、今こうやってしゃべってる感じで。
女1 え
女2 じゃああなたも
男 これ、外、大丈夫なんですか？

女 2 人、ため息

男 え、なんですか、そのマイク越しのため息、マイクの機能めちやくちやいい働きを
してますけど
女2 いや、まあ、ぬか喜びでした
女1 ぬか喜びでしたね

男 え、え、なんですかそれ
女2 いや、すみません、残念な登場だったんで
男 なんなんですか、登場が残念って。
女2 あ、いえすみません。
男 ていうかあのあなたたちは
女2 私たちも同じ状況なんです
男 え、え、でも、これなんなんですか
女2 いや、わからないんです、多分地震の影響で
男 ……え、なんなんですか、そんなちょっと、これ出れないですし、え、なんなん
ですかなんなんですか
女2 あわてないでください
女1 もう最初にやりましたからそのくんだり
男 そのくんだりって言われても、え、なんなんですかなんなんですか
女2 なんなんですかマンですか。ま、とりあえず、落ち着いて。今は待つしかないんで
すから。
男 なんなんですかなんなんですかなんなんですかなんなん……
女1 ちょっとそのドッキリされるのわかっててだまされる若手芸人みたいなのをやめて
ください。なんなんですか禁止していいですか。
男 え、え、え、でも、でもでも
女2 でもでもなしで。デモも戦争もないですよ。
女1 あ、もしかして、戦争、始まったのかもしれませんがね。
女2 え、
男 え！そうなんですか
女2 何馬鹿な事言ってるんですか
女1 だって、テレビで言ってましたもん、戦争が始まるかもしれないって
女2 テレビの見すぎですよ。
女1 でもミサイルが降ってくるって
女2 天気予報ですか。ところにより核弾頭ですか。
男 でもその可能性は捨てきれませんよ。
女2 捨てられますよ。だって生きてるじゃないですか。爆撃で古びたカラオケボックス
の壁がきしんで停電？そんなものですか？
女1 いやだって北朝鮮だし。所詮。
女2 所詮って、北朝鮮に失礼でしょうが。
女1 え
女2 いや、失礼はおかしかったけれど。
女1 でも、テレビでやってたんですよ、

女2 だからテレビ、
男 でも、その可能性は捨てきれませんよ。
女2 なんなんですか、
女1 あ、禁止ですよ
女2 なん、ですか
男 撃ち落としたんですよ、日本かアメリカが。きっと。きっとそうだ。
女2 どういうことですか
男 だから、「SM3」か、もしかしたら「PAC3」ですよ
女1 ちょっと下ネタはやめてください
男 いや下ネタじゃないですよ、迎撃「ミサイル」ですよ。「地对空の誘導弾」ですよ。
女1 声の下ネタみたいに聞こえるんですよ。
男 ええ
女2 おかしくないですか、だって迎撃したんでしょ。
女1 そうですね、確かに。じゃあやっぱり下ネタなんじゃ。
男 違いますって、違いますって、迎撃された「ミサイル」にしてもその「破片」が飛び散って、「核弾頭」の中にある「放射性物質」や「化学爆弾」の「中身」が「漏れてるかも」しれないんですよ、それが降ってきたら。「高高度核爆発の可能性」も、いや「降るまで」とは「言わずとも」、「SM3」の「破片」が落ちてきて、そうか、その可能性もありますね、あるな、そうか、これが、うわ、え、うわ、あ、あああ

男、ガサガサとドアを押したり、壁を叩いたりする
アナログな機械音がする。

女2 だからどんな天気予報なんですか、それは
女1 話を飛躍させないでください、不愉快です
女2 え？
男 今は超緊張状態ですよ、世界的に
女1 ちょっと何してるんですか
男 ネットとか見ないんですか2人とも、
女2 見ないです
女1 見ないです
男 やばいぞ、核シェルター買わないと、防護マスクも買わないと、今までコツコツ貯めてきたものを使わなきゃ、金！金！金！いえーい！
女2 なんでわくわくしてるんですか、もう馬鹿なこと言うのはやめてください。テレビだネットだ、戦争が始まるだってなんですか、そんなバカバカし……

アナログな機械音がする。

女2 え今、なんか変な音が大根の方から、なんか煙……？

小さな音で機械からモランボン楽団の「火星砲の歌」の前奏が流れる。

じょじょに大きくなる。(約1分)

女1 やっぱりおろした方が。

女2 だからなんでそこに話に行くんですか、もうその話は終わった話でしょうよ

女1 だから今まさに私の中で起こってるんです。

女2 怒ってるってあなた、そんなに怒ってたら寿命縮みますよ、もう彼のことは許して

男 早くおろした方がいいと思います。

女2 なんであなたまで、ていうか煙出てきてる

女1 でも不安なんですよ、

男 不安だからですよ

女1 どこがいいとかもわからないし

男 今ならネットでもおろせますし、あ、こっちにも煙

女2 何言ってるんですか、ネットって網？

女1 セーフティネットみたいなものですか？

女2 網でおろすの？表面しわしわなりますよ

女1 シングルマザーの人支援みたいな。

男 凍結されるかもしれないですね、多くて、ちょっと

女2 さんまが獲れすぎたりしてるってことですか？

男 非常事態ですからみんなおろそうとするかもしれないし

女2 非常事態ってなんですか、そんなに子だくさんだったんですか今年は

女1 子だくさんだからっておろすんですか、私はおろすかどうか迷ってるっていう話を

女2 だからそれはおろせばいいんですよ、そんなもの、

女1 そんなものってなんですか、

男 そんなものですよ、

女2 かぼすもつけて

女1 かぼす意味わからない

男 早くおろさないと、死んじゃったらただの物質ですから

女1 ただの物質ってなんなんですか！どっちなんですか！情報が多すぎてわかりません！どれを信じていいかわかりません！私の大事な子供なんです！もっと真剣に答えてください！もっと真剣に教えてください！なんなんですか！なんなんです

か！なんなんですか！

2人 甘えないでください！だから、おろせばいいんです！

「火星砲の歌」の歌唱部分が始まり、終わる。

女1 ……いやです。私、産みたいです。

シューシューと煙の出るような音が聞こえる。

女1、最初に見ていた対象物の方へ歩き出す。

女1 ほんとは。私、産みたいです。私の身長より小さくて、白くて、丸くて、ふさふさしてて、この子を。どんな世の中になるかshれないけれど、いろんな目に見えないものがいっぱいこの子の周りを飛び交っても、この子がすくすくと育つように。これ夢物語じゃないんです、コントでもないんです。現実なんです。すれ違ってもすれ違っても、すれ違い続けてもそれでも。きっとその散り散りになった弾頭の中には核も化学兵器も詰まってない。そこには喜びや怒り、悲しみ、幸せも、きっとそんなものが全部。

女2 あ、

部屋と Y シャツと私が流れる。

そこに北朝鮮のニュースが重なって流れる。

女2、男、ゆっくりとかがみ、倒れこむ

女1、ゆっくりと子どもの頭をなで、ゆっくりと空を見上げる。

暗転。

おわり。